

IR NAVI

アイアール
ナビ
vol.24

株主の皆様へ／取締役社長 小林喜光

● 第10期中間決算のご報告

もっと知りたい！ 三菱ケミカルホールディングス
KAITEKIな仲間たち Vol.02

“KAITEKI実現”

チャレンジ!! KAITEKI

抜群の透明性で環境にも優しい「デュラビオ」

証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第10期 中間期のご報告

2014年4月1日 ▶ 2014年9月30日

株主の皆様へ



取締役社長

小林 喜光

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期（2014年4月1日から9月30日まで）における当社グループの事業環境は、機能商品分野及び素材分野においては、海外経済の先行き等に対する懸念はあるものの、国内外の需要が概ね回復基調で推移し、緩やかに改善しました。ヘルスケア分野においては、海外に導出した製品は好調に推移したものの、国内では本年4月に実施された薬価改定やジェネリック医薬品の市場拡大等による影響を受け、環境は厳しくなりつつあります。

当上半期の連結業績の詳細は次頁以下に記載の通りですが、売上高は1兆6,722億円となり、利益面では、営業利益は737億円、経常利益は763億円、四半期純利益は332億円となりました。当期の中間配当金につきましては、当上半期の連結業績、中長期的な安定配当等を総合的に勘案し、1株につき6円とさせていただきます。

当社グループは、5カ年の中期経営計画「APTSIS* 15」のもと、徹底したコスト削減、設備投資の見直し、資産圧縮等の諸施策を実施し、収益の改善に努めるとともに、成長事業と位置付けるMMA事業及び炭素繊維やアルミナ繊維等の機能商品分野の基盤強化・拡大を行うなど事業の構造改革を実行し、企業体質のさらなる強化

に取り組んでまいります。また、当社は、事業構造の転換の一環として、大陽日酸に対する株式公開買付けを実施して同社を連結子会社とし、これにより、当社グループは、三菱化学、田辺三菱製薬、三菱樹脂、三菱レイヨン、生命科学インスティテュート及び大陽日酸の6社を事業会社とする新たな体制となりました。今後、当社と大陽日酸とは、より強固な資本関係のもと同一のグループとして協力し、両社の経営資源を有効に活用して一層の事業シナジーを追求し、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

また、最優先課題である安全管理の徹底はもとより、コンプライアンスやリスク管理について徹底を図ってまいります。さらに、コーポレート・ガバナンスについては、従来のガバナンス体制の強化に加え、株主・投資家の皆様をはじめとするステークホルダーの観点からのガバナンス向上に関しても、一層の強化に努めてまいります。

当社グループは、「APTSIS 15」の最終年度（2015年度）に向けて、グループの総力を挙げてこれらの経営諸課題に対する諸施策を着実に実行し、事業構造の改革・転換を加速することで、企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2014年12月

CONTENTS

■ 株主の皆様へ	1	■ “KAITEKI実現”	
■ 連結業績の概要	2	■ チャレンジ!! KAITEKI	9
■ セグメント別業績	3	■ 財務諸表の概要	11
■ 各事業会社の活動・トピックス	5	■ 株式の状況	13
■ もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス		■ 会社概要	14
■ KAITEKIな仲間たち Vol.02	7		

*「APTSIS」とは、Agility（俊敏に、とにかく速く）、Principle（原理原則・理念の共有）、Transparency（透明性・説明責任・コンプライアンス）、Sense of Survival（崖っぷちにあるという意識・危機感）、Internationalization（グローバル市場でのパフォーマンス向上）、Safety, Security & Sustainability（製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応）のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

連結業績の概要

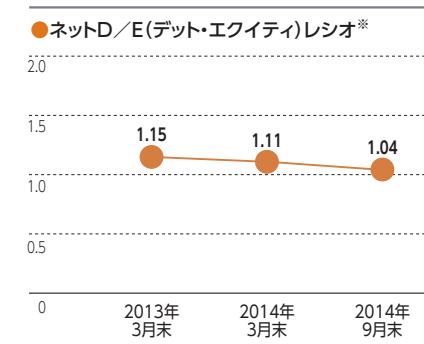
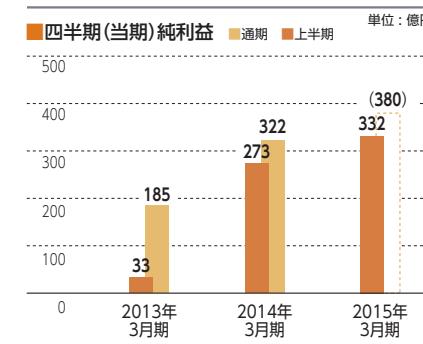
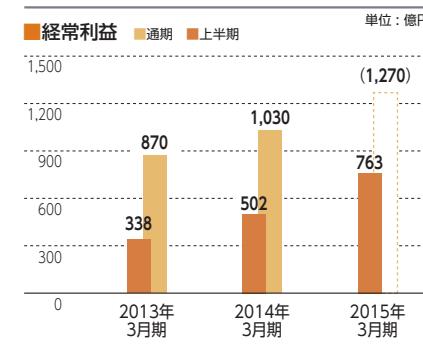
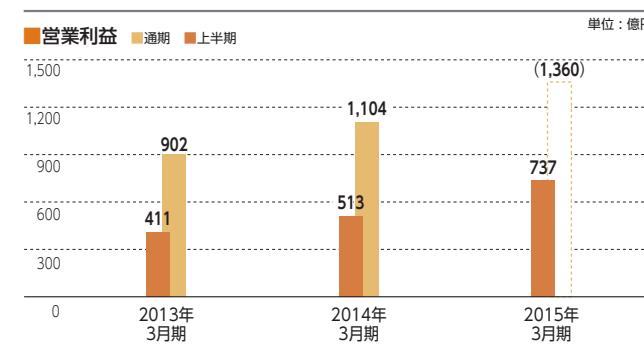
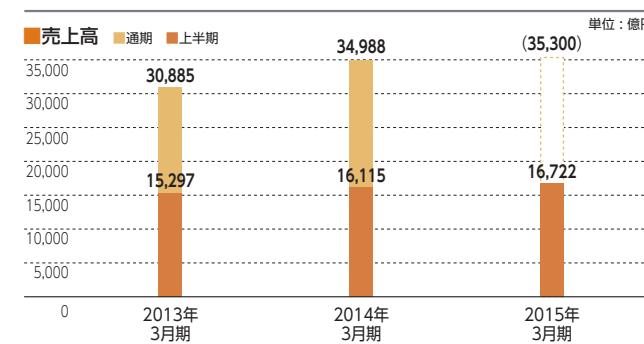
国内外の需要が概ね回復基調で推移し、増収・増益となりました。

需要が回復基調で推移するなど、事業環境は緩やかに改善

当上半期は、素材分野における原料と製品の価格差の改善に加え、国内外の需要が概ね回復基調で推移するなど、事業環境は緩やかに改善しました。当上半期の連結業績は、売上高は1兆6,722億円（前年同期比606億円増）となり、利益面では、営業利益は737億円（同223億円増）、経常利益は763億円（同261億円増）となり、四半期純利益は332億円（同59億円増）となりました。

ネットD/Eレシオが0.07ポイント改善

総資産は、円安の影響に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が増加したこと等により3兆5,636億円（前期末比842億円増）となり、また、負債は、円安の影響に伴い有利子負債の円貨換算額が増加したこと等により、2兆2,123億円（同478億円増）となりました。この結果、ネットD/Eレシオは1.04となりました。



※ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。
ネットD/Eレシオ = {有利子負債（割引手形を含む） - (現金・現金同等物+手元運用資金残高)} ÷ 自己資本
※（ ）内の数値は、2014年10月31日の第2四半期決算発表時点での予想数値であります。

セグメント別業績

	三菱化学		田辺三菱製薬		三菱樹脂		三菱レイヨン		生命科学 インステイテュート		
機能商品	<p>エレクトロニクス・アプリケーションズ</p> <p>売上高 1,336 (2014年3月期) / 575 (2015年3月期)</p> <p>営業利益 26 (2014年3月期) / 11 (2015年3月期)</p> <p>売上高構成比 3.4%</p>	<p>デザイン・マテリアルズ</p> <p>売上高 7,991 (2014年3月期) / 3,962 (2015年3月期)</p> <p>営業利益 474 (2014年3月期) / 273 (2015年3月期)</p> <p>売上高構成比 23.6%</p>									
ヘルスケア											
素材	<p>ケミカルズ</p> <p>売上高 9,550 (2014年3月期) / 4,410 (2015年3月期)</p> <p>営業利益 7 (2014年3月期) / 12 (2015年3月期)</p> <p>売上高構成比 26.3%</p>	<p>ポリマーズ</p> <p>売上高 8,584 (2014年3月期) / 4,164 (2015年3月期)</p> <p>営業利益 23 (2014年3月期) / 75 (2015年3月期)</p> <p>売上高構成比 24.9%</p>									
その他											

()内の数字は対前年同期比

エレクトロニクス・アプリケーションズセグメント
 《売上高》575億円(6億円増)
 記録材料…販売価格が低下
 電子関連製品…販売数量が増加、半導体向け精密洗浄・ウエハー再生等の事業が概ね堅調
 情報機材…OPC、トナーの海外における販売が低調に推移
 《営業損益》△11億円(15億円損失減)
 コスト削減等により損益改善

デザイン・マテリアルズセグメント
 《売上高》3,962億円(263億円増)
 食品機能材…順調に推移
 電池材料…自動車用電池向けの販売数量が増加
 樹脂加工品…タッチパネル向けフィルムの需要が概ね堅調に推移
 複合材…炭素繊維及びアルミナ繊維の販売が好調に推移
 《営業利益》273億円(43億円増)
 販売数量の増加等により増益



ヘルスケアセグメント
 《売上高》2,558億円(50億円増)
 医薬品…ジェネリック医薬品の影響拡大による販売数量の減少
 診断製品及び臨床検査…診断検査事業での販売が増加
 製剤材料…販売が堅調に推移
 《営業利益》398億円(52億円増)
 ロイヤルティー収入の増加及びコスト削減等により増益



ケミカルズセグメント
 《売上高》4,410億円(197億円減)
 基礎石化製品…エチレンの生産量43万8千トン(15.4%減)
 合成繊維原料…軟調な需給バランスを背景に市況が低迷
 炭素製品…原料炭価格の低下に伴うコークスの販売価格の低下により売上げが減少
 《営業利益》12億円(11億円増)
 原料と製品の価格差の改善及び固定費の削減等により増益

ポリマーズセグメント
 《売上高》4,164億円(362億円増)
 合成樹脂…原燃料価格の上昇を受け販売価格を是正及び販売数量が増加
 《営業利益》75億円(85億円増)
 原料と製品の価格差の改善等により増益



その他
 《売上高》1,052億円(121億円増)
 物流事業…外部受注が減少
 エンジニアリング事業…堅調に推移
 《営業利益》21億円(17億円増)
 エンジニアリング事業の増収等により増益



各事業会社の活動・トピックス

三菱化学

機能商品

- 三菱化学メディアが、放送業界向けプロフェッショナルディスクの製造に向け、ソニーとライセンス契約を締結（4月）
- ローソンファーム秋田に植物工場システムを販売（6月）
- 中央理化学工業が、会社分割により日本合成化学工業の合成樹脂エマルジョン製品の製造部門を承継し、ジャパンコーティングレジジンに社名を変更（10月）



放送業界向け
プロフェッショナルディスク

素材

- サンプレーン（タイランド）社（タイ）が、三菱化学パフォーマンスポリマーズ（タイランド）社（タイ）に社名を変更するとともにアマタナコン工場を拡張して熱可塑性エラストマーの新規製造設備を導入することを決定（8月）

その他

- 三菱化学物流の尼崎油槽所が、2014年度安全功労者総務大臣賞（団体の部）を受賞（7月）

田辺三菱製薬

ヘルスケア

- アレルギー性疾患治療剤「タリオン錠」及び「タリオン

OD錠」について、小児適応追加に係る承認事項一部変更承認を申請（6月）

- 田辺三菱製薬工場が、同社の鹿島工場の譲渡に関し、沢井製薬と基本合意書を締結（6月）
- 加島事業所内のオフィス棟が竣工（7月）
- 2型糖尿病治療剤「カナグル錠100mg」の国内製造販売の承認を取得し（7月）、同治療剤の販売を開始（9月）
- アストラゼネカ社（イギリス）との間で、糖尿病性腎症に関する研究パイプライン拡充を目的として、研究初期段階の創薬推進に関する共同研究契約を締結（8月）



2型糖尿病治療薬
「カナグル錠100mg」

三菱樹脂

機能商品

- 三菱樹脂アグリドリームが、無錫市三陽生態農業発展社（中国）との間で、太陽光利用型植物工場の中国での販売拠点となる合併会社として、無錫菱陽生態農業施設科技社（中国）を設立（5月）
- 畜産粗飼料の稲わら等を屋外で乾燥しながら容易に保管可能な透湿防水性シート「乾^{から}っとシート」の本格販売を開始（6月）
- 坂出工場において、アルミナ繊維「マフテック」の製造設備の増設工事を着工（8月）
- 浅井工場において、共押出多層フィルム「ダイアミロン」の新ラインを竣工（9月）

- ヘッセン州ヴィースバーデン（ドイツ）に、アルミ樹脂複合板「アルポリック」の製造・販売拠点を設置（9月）



「アルポリック」の施工例
（オランダのEYE Film Museum）

三菱レイヨン

機能商品

- MRCヨーロッパ社（ドイツ）が、欧州における本格的な販売活動を開始（4月）
- 三菱レイヨン・カーボンファイバーアンドコンポジット社（米国）が、炭素繊維製造設備の増設を決定（6月）
- 自動車用炭素繊維強化プラスチック製部品メーカーであるベティエ社（ドイツ）の株式を51%取得し、同社を連結子会社化（10月）

素材

- 三井物産との間で、米国におけるMMAモノマーの製造・販売

大陽日酸を連結子会社化

当社と国内最大手の産業ガスメーカーである大陽日酸とは、昨年9月に資本業務提携契約を締結し、製造・販売拠点やサプライチェーンの相互活用及び海外における新規立地での協業を進めるとともに、エレクトロニクス、メディカル、ヘルスケア等の分野においてシナジーの追求を図ってまいりましたが、今般、相互のグループ間におけるシナジーを最大化すべく、大陽日酸に対する株式公開買付けを

事業を行う合併会社設立に向けた詳細検討の開始に合意するとともに、同合併会社に対する一部原料の供給及び製品の販売で協業することに関して、三井物産及びダウ・ケミカル社（米国）と基本骨子に合意し、覚書を締結（6月）

- サウジ基礎産業公社（サウジアラビア）との間で、MMAモノマー及びアクリル樹脂の製造を目的とする合併会社を設立（6月）

生命科学インスティテュート

ヘルスケア

- 健康ライフコンパスが、健康セルフチェックサービスを東京、大阪、愛知の三大都市圏で開始（4月）
- LSIメディエンスが、ニコンとの間で、健康・医療事業における協業に関する基本契約書を締結（5月）
- LSIメディエンスが、NEDO*のプロジェクトの一環として、ヒトiPS細胞由来の心筋細胞を用いた、医薬品による心循環器系の副作用を評価するシステムを開発し、受託試験サービスを開始（7月）

*独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構



実施し、本年11月に同社を連結子会社としました。

これにより、当社は、大陽日酸を第6の事業会社として当社グループに迎え、より強固な資本関係のもと、グループ内の経営資源を有効に活用して一層の事業シナジーを創出することで、グローバルな事業環境の変化に迅速に対応するためのさらなる事業構造の改革・転換を進めてまいります。

KAITEKIな
仲間たち Vol.02



会社名 田辺三菱製薬株式会社
本社所在地 大阪市中央区北浜2-6-18
発足 1933年(合併：2007年)
資本金 500億円
取締役社長 三津家 正之

重点疾患領域と主力製品



自己免疫疾患「レミケード」

点滴での投与による関節リウマチ、クローン病等の治療薬です。2002年にクローン病の治療薬として販売を開始し、2003年に関節リウマチの効能を追加しました。現在、複数の効能追加等のフェーズ3試験を実施中で、本年10月、特殊型ベーチェット病について申請を行いました。



中枢神経系疾患「レクサプロ」

2002年に欧州及び米国で販売され、現在では世界97の国と地域で承認されている抗うつ薬です。2011年以来、持田製薬と共同販売を行っており、うつ病・うつ状態への優れた有効性と良好な忍容性が認められています。

持株会社である当社とともに当社グループの事業の中核を担う、大陽日酸を加えた6つの事業会社を順番にご紹介いたします。

独自の価値をお届けする国際創薬企業

田辺三菱製薬は、「医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献します」という企業理念に基づき、医療用医薬品、一般用医薬品などを提供しています。「すべては患者さんのために」という価値観のもと、広く世界の人々の健康に貢献することで、国際創薬企業としての社会的使命を果たしてまいります。



糖尿病・腎疾患「カナグル」

「過剰な血糖を、直接体の外に排泄する」というコンセプトに基づいて創製され、糖の再吸収を抑制、尿中に過剰な糖を排泄し、優れた血糖低下作用を示す2型糖尿病治療薬です。本年9月より発売を開始しました。また、その研究業績が認められ、本年、日本薬学会創薬科学賞を受賞しました。



ワクチン「水痘ワクチン」

水痘帯状疱疹ウイルスの感染による水ぼうそうを予防するワクチンです。本年10月より、生後12カ月から36カ月までの幼児を対象に、定期接種化されました。これにより水痘患者数の減少及び流行抑制が期待されています。

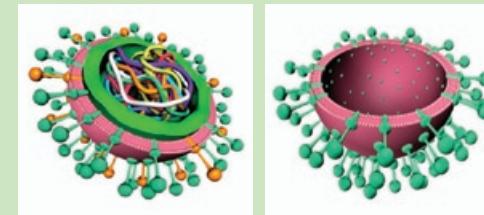
三菱化学、田辺三菱製薬、三菱樹脂、三菱レイヨン及び生命科学インスティテュートと新たに第2回目は、田辺三菱製薬です。

KAITEKIへの挑戦

安全性に優れた植物由来の
VLPワクチン製造技術の獲得

昨年9月にカナダのバイオ医薬品会社であるメディカゴ社(カナダ)を買収し、新規ワクチンの研究開発に取り組んでいます。

メディカゴ社は植物由来VLP(ウイルス様粒子)を効率的に抽出・精製する独自技術を有しています。VLPは高い免疫獲得効果に加え、体内でウイルスが増殖しない等の安全面でのメリットも期待されており、同社の優れた技術を活用することで、グローバルに展開できる新規ワクチンの創製をめざしてまいります。



インフルエンザウイルス

VLPワクチン

収益力と研究開発力の強化をめざす

Q. 田辺三菱製薬の強みと今後の展開について

A. 田辺三菱製薬は、特長ある製品を高度な情報とともに丁寧に提供することに長けており感じております。

今後は、「自己免疫疾患」「糖尿病・腎疾患」「中枢神経系疾患」に「ワクチン」を加えた4つの重点疾患領域に注力しながら、アンメット・メディカル・ニーズ*に応える新薬を開発し、それらの早期上市の実現や上市後の速やかな市場浸透につなげていきたいと考えています。



田辺三菱製薬株式会社
取締役社長 三津家 正之

直近の田辺三菱製薬の経営環境は、国内医療用医薬品事業に対する逆風により、非常に厳しい状況ではありますが、持続的な成長に向けて、組織・行動の変革、国内営業の変革、そして研究開発の変革を進め、激しい環境変化に打ち勝つ強靱な体質へ変革し、患者さんや医療関係者の方々に独自の価値を、一番乗りでお届けする、スピード感のある創薬企業への変貌をめざしてまいります。

また、三菱ケミカルホールディングスグループとしては、本年4月に誕生した生命科学インスティテュートと、より包括的なシナジーを出せるような協業を進めたいと考えており、グループ間の連携を図りながら、開発パイプラインの一層の充実に取り組んでまいります。

*アンメット・メディカル・ニーズ…有効な治療法、医薬品がなく、未だに満たされない医療上のニーズ

“KAITEKI実現” 「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍」

KAITEKIとは、時を超え、世代を超え、人と社会と地球の心地よい状態が持続することです。そのKAITEKI実現に向けた当社グループの取り組みをご紹介します。

太陽光利用型植物工場で収穫した「ヴェルデプラス」を販売開始

三菱樹脂は、本年8月、長浜工場（滋賀県）に設置した太陽光利用型植物工場^{※1}で収穫した野菜のブランド名を「ヴェルデプラス（VerdePlus）^{※2}と名付け、本格販売を開始しました。

三菱樹脂は、国内120カ所以上の導入実績があり、同社の子会社である三菱樹脂アグリドリーム製の設備を本年2月に設置し、栽培試験、品質確認などを進めてきました。

植物工場では、害虫の入らない高機能フィルムを使用しているため、無農薬で安定的に野菜が栽培できます。

収穫されたサラダほうれん草は、えぐみが少なく生で食べられます。近隣府県の飲食店などを中心に順次販売を拡大しています。

※1 人工光を用いた完全閉鎖型の苗生産装置で苗を育て、その苗を、紫外線カットフィルム等の高機能フィルムを使用し、環境条件を制御した農業ハウス内に移し、養液栽培システムで野菜を栽培するシステムです。比較的容易に計画的かつ安定的に野菜を栽培することができます。

※2 三菱樹脂が提供する野菜のブランド名。「ヴェルデ」はイタリア語で緑を意味します。



葉菜類用養液栽培システム
「ナッパーランド」



人工光・閉鎖型苗生産装置
「苗テラス」

完全人工光型植物工場システムを販売

三菱化学は、2009年より水耕栽培技術をシステム化した完全人工光型植物工場の市場拡大を進めてきました。

この度、本年3月に阪神電気鉄道へ、本年6月には、ローソンファーム秋田に植物工場システムを販売しました。

この植物工場システムは、LED照明や蛍光灯によって植物の光合成を促す完全人工光型となっています。土を使わない水耕栽培で、かつ農薬を使用しないので、洗わなくても食べられる安心・安全な野菜を提供できます。また、温度、湿度、養分などの育成環境を最適な状態に制御することにより、気候に左右されず、年間を通して同じ品質の野菜を栽培することが可能です。



栽培の様子



チャレンジ!! KAITEKI 07

抜群の透明性で環境にも優しい「デュラビオ」

高機能な植物由来プラスチックを開発

三菱化学の手掛ける高機能な新規バイオエンジニアリングプラスチック「デュラビオ」。

環境に優しい植物由来の原料を用いた製品でありながら、ガラスとプラスチック両方の性質を併せ持ち、高い透明性や優れた光学特性、光による劣化が少ない耐候性など、数多くのメリットを実現しました。

特性を活かして幅広い分野に展開

デュラビオは、発色性が良く、透明度が高いため、顔料を配合して成形するだけで、つややかな光沢のある表面を作ることができることから、スズキの新型軽乗用車「ハスラー」の内装樹脂カラーパネルに採用されました。

今後は、自動車用途だけでなく、光学特性を活かしてスマートフォンや端末などのディスプレイ、高速道路に用いる遮音板など透明部材、建築用途など、幅広い分野に展開していきます。

「デュラビオ」のここが KAITEKI

ガラスとプラスチック両方の特長を兼ね備えたバイオプラスチック

植物由来のインソルバイドを原料としたエンジニアリングプラスチックとして、世界で初めて量産化に成功。光学特性、耐候性に加え、加工しやすさ、発色性の良さなど、多くの機能を備えます。

環境負荷抑制に貢献

主原料が植物由来であるため、化石燃料資源を節約。さらに、発色性が良く塗装が不要なため、塗料由来のVOC（揮発性有機化合物）排出削減など、環境負荷の抑制に貢献。



新規バイオエンジニアリングプラスチック「デュラビオ」



21世紀はLEDが照らす

中村修二カリフォルニア大学サンタバーバラ校（米国）教授は、青色発光ダイオード（LED）の技術開発が評価され、本年のノーベル物理学賞を受賞しました。

青色光を生み出すのは窒化ガリウムという物質で、三菱化学では、2001年以来、中村教授と共同でこの窒化ガリウムの単結晶を大きく成長させる製法の研究をしています。その結果、三菱化学は、液相法と呼ばれる独自の高品質で低コストな窒化ガリウムの生産手法を開発しました。現在、本格的な販売に向けた準備を進めています。

窒化ガリウムは、LED照明のみならず、電気自動車や高速無線通信に不可欠な電子デバイスの材料として、KAITEKIの実現に貢献することが大いに期待されています。



中村教授と
小林社長（左）

三菱化学の
窒化ガリウム
基板（下）



財務諸表の概要

連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当上半期 [2014年9月30日現在]	前期 [2014年3月31日現在]
(資産の部)		
流動資産	16,424	15,634
現金・預金	1,730	1,376
受取手形・売掛金	6,206	6,157
たな卸資産	5,986	5,911
その他	2,522	2,210
貸倒引当金	△ 20	△ 21
固定資産	19,211	19,159
有形固定資産	11,315	11,180
投資有価証券	3,446	3,335
のれん	1,713	1,800
その他	2,736	2,842
資産合計	35,636	34,793

Point 1 **資産合計**
資産合計は、主に在外連結子会社の円貨換算額が増加したことにより増加しています。

(単位:億円)

科目	当上半期 [2014年9月30日現在]	前期 [2014年3月31日現在]
(負債の部)		
流動負債	12,763	12,593
支払手形・買掛金	4,292	4,134
短期金融債務	5,623	5,654
その他	2,847	2,805
固定負債	9,359	9,051
長期金融債務	7,222	6,927
その他	2,137	2,123
負債合計	22,123	21,644
(純資産の部)		
株主資本	8,606	8,495
資本金	500	500
資本剰余金	3,177	3,177
利益剰余金	5,046	4,936
自己株式	△ 117	△ 117
その他の包括利益累計額	658	512
新株予約権	4	4
少数株主持分	4,242	4,135
純資産合計	13,512	13,148
負債及び純資産合計	35,636	34,793

Point 2 **負債合計**
負債合計は、主に有利子負債の円貨換算額が増加したことにより増加しています。

連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当上半期 [自2014年4月 1日 至2014年9月30日]	前上半期 [自2013年4月 1日 至2013年9月30日]
売上高	16,722	16,115
売上原価	13,128	12,785
販売費・一般管理費	2,857	2,816
営業利益	737	513
営業外収益	163	157
営業外費用	136	169
経常利益	763	502
特別利益	166	236
特別損失	93	27
税金等調整前四半期純利益	836	711
法人税、住民税及び事業税	271	233
法人税等調整額	37	48
少数株主利益	195	156
四半期純利益	332	273

Point 3 **特別損失**
主に構造改革に伴う特別損失により増加しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当上半期 [自2014年4月 1日 至2014年9月30日]	前上半期 [自2013年4月 1日 至2013年9月30日]
税金等調整前四半期純利益	836	711
減価償却費	640	601
たな卸資産	△ 24	△ 70
営業債権債務他	△ 245	△ 344
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,207	897
有形・無形固定資産取得	△ 647	△ 592
有価証券・投資有価証券取得	△ 345	△ 567
その他	263	518
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 728	△ 641
有利子負債	92	125
配当金他	△ 169	△ 192
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 77	△ 67
現金・現金同等物に係る換算差額	29	116
現金・現金同等物の増減額	431	304
現金・現金同等物の期首残高	1,795	1,531
現金・現金同等物の四半期末残高	2,227	1,835

Point 4 **営業活動によるキャッシュ・フロー**
営業活動によるキャッシュ・フローは、主に税金等調整前四半期純利益の増加及び運転資金の減少により、収入が増加しています。

株式の状況

株式の状況

(2014年9月30日現在)

発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	174,745名

大株主

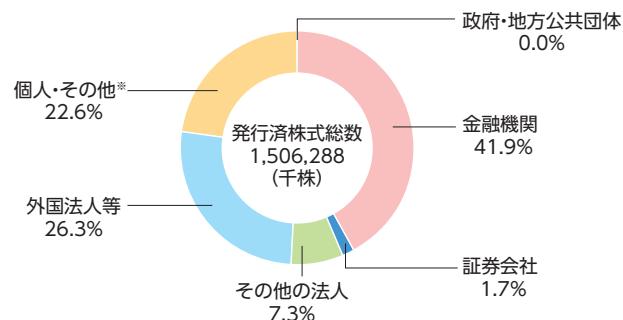
(2014年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	78,087	5.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	72,618	4.9
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.3
日本生命保険相互会社	42,509	2.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	41,105	2.7
東京海上日動火災保険株式会社	27,775	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	26,002	1.7
太陽生命保険株式会社	18,838	1.2
株式会社みずほ銀行	17,695	1.1
三菱UFJ信託銀行株式会社	17,258	1.1

※上記のほか、当社が自己株式として31,380千株を保有しておりますが、上記出資比率は自己株式を控除して算出しております。

所有者別株式分布の状況

(2014年9月30日現在)

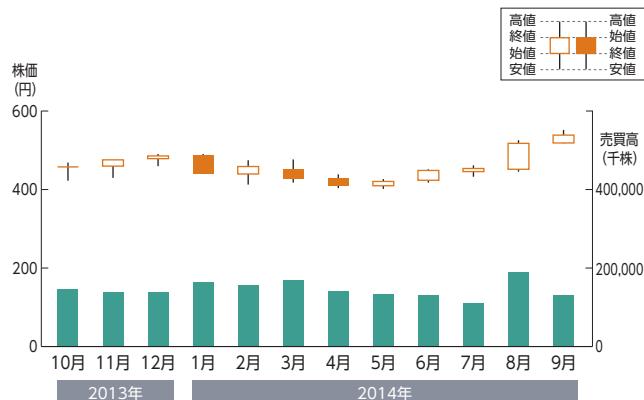


※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

配当の状況

1株当たり配当金(円)			
	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期
中間	6	6	6
期末	6	6	(6)
合計	12	12	(12)

株価・株式売買高の推移(東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用下さい。

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>



当社ホームページでは、プレスリリースや経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用下さい。

三菱ケミカル

会社概要

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
(英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒100-8251
東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
(パレスビル)
電話 03-6748-7200

資本金 500億円

取締役

(2014年9月30日現在)

小林 喜光	代表取締役 取締役社長
津田 登	代表取締役 副社長執行役員 広報・IR室(広報)、総務室、 内部統制推進室分担 コンプライアンス推進統括執行役員
石塚 博昭	取締役
三津家正之	取締役
姥貝 卓美	取締役
越智 仁	取締役
ルン・フルリクソ	取締役 常務執行役員 R&D戦略室分担
橘川 武郎	取締役

※橘川武郎氏は、社外取締役であり、また、当社は社外取締役の同氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

監査役

(2014年9月30日現在)

中田 章	常勤監査役
山口 和親	常勤監査役
西田 孝	常勤監査役
渡邊 一弘	監査役 弁護士
伊藤 大義	監査役 公認会計士

※西田 孝、渡邊一弘、伊藤大義の3氏は、社外監査役であり、また、当社は社外監査役の3氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

執行役員

(2014年9月30日現在)

大平 教義	専務執行役員	人事室長
唐津 正典	専務執行役員	グループ基盤強化室 (製造・レスポンスブルケア、 購買、物流、エンジニアリング 担当)
小酒井健吉	常務執行役員	経営管理室、 広報・IR室(IR)分担 グループ基盤強化室 (情報システム、共通基盤強化担当)
田中 良治	常務執行役員	経営戦略室長 グループ基盤強化室 (エリア戦略、マーケティング、 自動車関連事業推進担当)
池川 喜洋	執行役員	CEOオフィス部長
浦田 尚男	執行役員	R&D戦略室長
長田 雅宏	執行役員	経営管理室長
瀬川 拓	執行役員	中国総代表
二又 一幸	執行役員	CEOオフィス部長

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎ 公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 (〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 郵便物送付先及び電話お問合せ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

IR NAVI アイアール ナビ とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報 (IR情報) をよりわかりやすく株主の皆様にご案内 (道案内) していきたいという意味を含めております。

2014年1月1日より
単元株式数を変更いたしました。

100株単位での株式の売買が可能です。

投資家の皆様にとって、より投資しやすい環境を整え、当社株式の流動性の向上及び投資家層のさらなる拡大を図るとともに全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、単元株式数を見直し、2014年1月1日より、単元株式数を500株から100株に変更いたしました。

【ご注意】
特別口座をご利用の株主様へ

今回の単元株式数の変更に伴い、100株単位でのお取引が可能となりますが、特別口座に株式をお持ちの株主様がお取引をされる場合は、あらかじめ特別口座から証券会社の口座への振替が必要となります。

特別口座からの振替申請については
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

0120-232-711

(平日 9:00~17:00) までお問合せ下さい。

